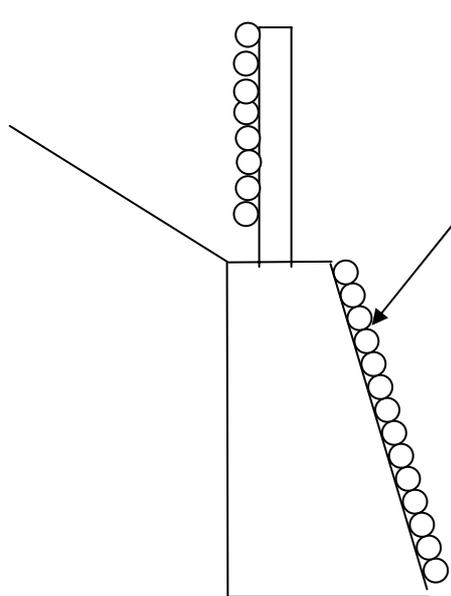


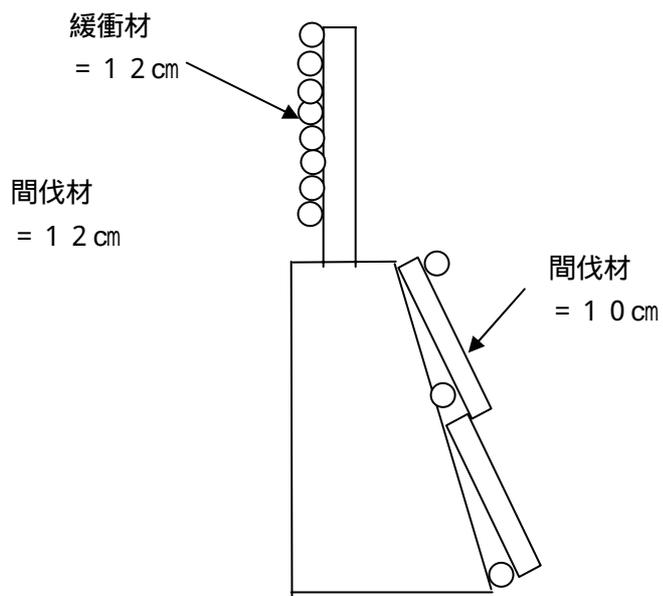
事例 NO.29		
事業の種類	砂防・治山	
環境配慮の概要	土留工の表面修景	
事業名	予防治山事業（山腹工事）	
事業主体	広島県（担当機関：福山地域事務所農林局林務第一課）	
実施場所	広島県福山市草戸町	
実施期間	平成11年度	
事業概要	全体事業費	36百万円
	施工区間等	土留工2個 65.0m, 落石防護工
	事業の目的・経緯等	山腹斜面において,不安定な土砂の移動抑止及び崩壊の防止を図るため土留工を設置し,林内に点在する転石の落石防止予防対策として落石防護工を設置した。景観配慮については,当該施工地は,福山市草戸町の芦田川右岸部一帯の,山地災害危険地区の土砂災害防止対策工事であり,施工地の住宅地背後の森林については,都市計画において定められた風致地区に指定されていることから,計画段階から周辺景観との調和と,間伐材の利用促進を考慮した工法で施工している。また,当地区は平成11年度から平成18年度(計画)にかけての継続事業であり,年度毎に計画段階で景観への配慮を考慮しながら工法を決定している。
環境配慮の内容	<p>工法等</p> <p>(1) モルタル吹付工及び現場打法枠工のコンクリート色が周辺環境を損なうため景観に配慮したカラーモルタル工法とした。</p> <p>(2) 新設土留工については,間伐材を型枠として利用しそのまま残し,既設土留工については表面修景として間伐材を利用した。</p> <p>(3) 鋼材(落石防護柵)については,景観に配慮した塗装品を採用した。</p>	
施工後の状況	<p>効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート部：通常の化粧型枠と違い,自然の物を使うことによって,視覚的にも威圧感なく,自然に溶け込んだ色彩となっている。 ・鋼材部：通常の亜鉛メッキと違い,視覚的に威圧感がなく,自然に溶け込んだ色彩となっている。 	
留意点等	<ul style="list-style-type: none"> ・型枠に間伐材(防腐処理済み)を利用したが,経年変化による視覚的問題が課題として残る。 	

(図面, 写真, 説明)



【断面図(新設土留工)】

〔型枠として間伐材を利用し, そのまま残した。〕



【断面図(既設土留工)】

〔表面修景として間伐材を使用。〕



【施工後の状況】

都市風致内のため風景配慮と間伐材の利用促進を図るため, 型枠に間伐材を使用した。

出典